

Pick Up!

「協業」がビジネスの広がりをつくる

リノベ会社と工務店さま向け情報発信イベント「リノベーションBOX」を、11月末に福岡で開催しました。九州沖縄エリアから170社、320名がご来場いただき、大変盛況なイベントとなりました。

今回多くのお客さまにご来場いただいた要因の1つが、協業の皆さまのセミナーによるものでした。当社が協業の取組みに参加して7年ほど経ちますが、RBSなどで実施されている「営業手法」や「集客」のセミナーが素晴らしく、これを私たちのお客さまにも届けたいと考え、形とした結果が本イベントです。



この取り組みを通じ、感じたのは2点です。1点目は、皆さまがセミナーで提供されるコンテンツの魅力です。アンケートでも満足度が高く、もっと話を聞きたい、今後もこういった機会を増やしてほしいというご要望を多数いただきました。協業の方々にとっては常態的な講演

NEWS!

九州沖縄事務局からのお知らせ

## 2025年度九州沖縄エリアの活動を振り返って

2025年度の九州沖縄エリアは、各支部の動きをつなぎながら、学びと交流の機会を積み重ねた一年となりました。春の熊本RBSでは、相談会とセミナーを組み合わせたイベントを開催し、BtoCの取り組みとしても手応えのあるスタートとなりました。その後も宮崎・鹿児島・沖縄・福岡と、地域ごとの課題や関心に合わせた勉強会やセミナーが各地で行われ、少人数ながら内容の濃い場が継続して生まれています。

福岡ではRCNT資格更新講習を実施し、久しぶりに多くの会員が一堂に会する機会となりました。また、宮崎市主催セミナーへの参画や、メーカーと連携した沖縄RBSなど、行政・企業との協働による企画が実現したことも今年度の特徴です。秋には「RENOVATION NOW 2025」を開催。基調講演や現場ツアーを通じて、

生活者に向けたリノベーションの発信と、会員同士の横のつながりを同時に育む機会となりました。

こうした活動の裏側では、日程調整や告知方法の整理、申込・運営フローの見直しなどを行いながら、支部長不在エリアのフォローや今年度発足した宮崎支部の立ち上げサポートも進めてきました。6役ワーキングではより濃い議論につなげるため、理事・事務局長・事務局・広報の4役で事前に会議を行い、論点整理や段取りを整えたうえで6役ワーキングに臨んできたことも今年度の改善でした。

各支部の皆さま、登壇者の方々、そして協力いただいた企業・関係者の皆さまの支えがあってこそ一年だったと、事務局として改めて感じています。心より感謝申し上げます。



九州沖縄エリア部会 事務局 原文美

## 「RENOVATION NOW 2025」開催報告と御礼

11月1日(土)～9日(日)に開催されたRENOVATION NOW 2025。たくさんのご参加、誠にありがとうございます！初日となる11月1日には、福岡で吉田恵美氏の基調講演が行われ、九州各地から100名近いご来場をいただきました。世界最新のトレンドから、相手の話をとことん聴く対話術とそれを活かした実績まで、心に残る貴重な学びの時間となりました。

その他にも、福岡では4社合同のリノベツアー、熊本では久田一男氏(9株式会社)と田村辰一郎氏(株式会社タムタムデザイン)による特別講演、そして北九州では3社合同のリノベーション相談会など、各地で多彩なイベントが繰り広げられました。

今回のイベントを通して、九州全域でリノベーションの魅力を発信できたこと、とてもうれしく感じています。ご参加くださった皆さま、そして関係者の皆さまに改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました！



吉田氏の基調講演



熊本で開催された特別講演会



リノベーション事務局 平成広告宣伝事務所 土田芳史

## 2月以降の主なスケジュール

- 2月10日(火) 年次総会兼新年会  
(博多駅バスターミナル会議室)
- 3月 3日(火) 事務局会議(はびりの)
- 3月16日(月) 宮崎支部「リノベの勉強会#5」  
(新公民館VOL)
- 4月 7日(火) WG(リノベエステイト)
- 5月12日(火) 事務局会議(はびりの)
- 5月中～下旬 福岡支部RBS  
「インテリックスの山本会長が買取再販の歴史を語る」
- 6月 2日(火) WG(リノベエステイト)

来期からスタートする福岡支部では、北九州支部と合同でさまざまなイベントを計画中です。夏には北九州市内で「タムタムデザイン×ひまわり」のデザイン塾、秋にはROY2025無差別級で最優秀賞を獲得したエンジェワークスの福田社長による講演会などを企画しています。お楽しみに！



Renovation Times 一まるごと九州・沖縄 Vol.12 2026年2月号

発行 一般社団法人リノベーション協議会 九州沖縄エリア部会  
(エリア内正会員61社 / 賛助会員16社 / 2026.1.15現在)  
発行人 馬越重治(エス・コンセプト) 編集長 山崎大亮(はびりの)  
制作 吉田千裕(はびりの) 編集人 原文美(ハラブロ)  
発行日 2026年2月10日 メール news@renovationnow.net

Renovation Timesでは、リノベーション協議会に参加されている各社の取り組みを積極的にご紹介しています。掲載をご希望の方は、お気軽に上記までご連絡ください。【次回の発行は2026年5月です】

九州・沖縄  
から全国へ!

Renovation Times

VOL.  
12  
2026.02かえる。くらし。すまい。  
リノベーション協議会

お客さまの空間を  
が育む。

コミュニケーションで育む  
空間作り

私はリノベーションを、ただ建物を再生するだけではないと思っています。地域の記憶を受け継ぎながら、新たなつながりを生み出す。そういうプロセスだと思っています。そこで重要なのが会話です。意外に感じられるかもしれませんが、コミュニケーションとは単に話を聞くことではありません。むしろプロジェクトが終わった後に、フィードバックを受けることが大切です。

私が日頃から意識しているのは、顧客参加型のデザインです。自分がデザイナーとしての経験を伝えるだけではなく、目の前にいるお客さまと一緒に共創する。みんなを巻き込みながら、一つのデザインを築いていくことを30年以上続けています。それが顧客満足度の向上につながり、関係性を築くことにもなります。

お客さまとの会話を通じて作り上げたデザインを「よかった」と言われるか、もっとうまく改善できたはずなのか。そのフィードバックを通じたコミュニケーションこそ、大変重要です。参加型デザインというのは、育てていくためのデザインなんです。プロジェクトが終わった後も、会話を育むことを意識してください。

流動性を前提とした  
デザイン

続いては、リノベーション空間建築における素材やトレンドについてお話しさせていただきます。日本でもサウナがブームとなっているように、ウエル

ネスに対する興味が世界的に高まっています。自然の音であったり、光であったり、空気の質であったり。とことんウェルネスについて考えることが求められています。

それから、流動性もキーワードとなるでしょう。しなやかに対応できる余白を作ることが大切です。空間の流動性とは、家具などの可変性ではありません。働き方の変化だったり、趣味が変化することへ対応できるデザインが求められています。

いまアメリカでは東洋の美、つまり日本の「和文化」が注目されているんですが、美の基準が変化してきたと感じています。これまでは形や機能など、目に見える部分を意識していました。しかし、現在では感情や体験、時間の流れなどを指すようになっています。物と人、自然と人工、東洋と西洋などの境界を超えた価値観から、自由なデザインを作って



鞆神社社務所ビルで開催された講演会には、およそ100名が来場。熱心にメモを取りながら、聞き入る参加者も多かった。



TOPIC! 「RENOVATION OF THE YEAR 2025」に参加しました

全力で社会課題に向き合い、突破する姿に感動!

今年の受賞作品は、建築費高騰や深刻な空き家問題、職人不足など、厳しい社会課題をいかに突破するかを考えた作品が多い印象でした。特に印象的だったのは、グランプリを受賞した合同会社つみき設計施工社の「人間は、つくることをやめない!」です。施工者という枠を、施主やその家族、仲間まで広げ、DIYを通して一緒に作りあげた住まいは、ただの課題解決にとどまりません。その住まいに関わるすべての方が、「暮らしをつくる楽しさ」を最大化しようとするのは、今後のリノベーションにとって大切な姿だと感じました。

これからは、ハードとしての住宅性能向上だけでなく、さらにその先にある体験や感動などのソフト面をいかに設計するかが、より一層重視されていくと思います。次回ROYからは、会員以外の公募も可能となる予定です。団体の垣根を超えて、より多くの素敵な作品に出会えるのではないかと、今からワクワクしています。受賞された皆さま、本当におめでとうございます!

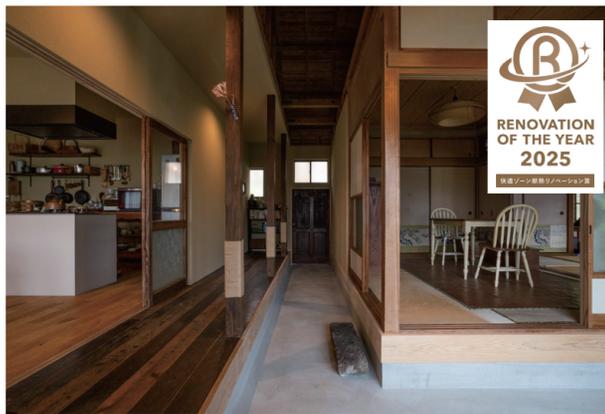
九州沖縄エリア部会 広報 土田芳史



九州沖縄エリアの会員が入賞した作品をご紹介します

快適ゾーン断熱リノベーション賞

「棲み分け断熱」という、暮らし方 PAAK DESIGN (宮崎支部)



南国宮崎の気候に適した「棲み分け断熱」が、この度特別賞を受賞しました。断熱性能とコストの最適解を追求し、既製品では届かない「地方の特殊解」をリノベーションで実現した提案です。地域の環境に根ざした豊かな暮らしのあり方が、全国で評価されたことを光栄に思います。

PAAK DESIGN 鬼束準三

スマートコストダウン・リノベーション賞

工種を絞って、人気エリアに総額2,000万円でマイホーム はびりの (福岡支部)



未来プレゼンテーション賞

4D設計で実現した「子どもと成長する家」 はびりの (福岡支部)



当社の特徴であるマーケティングに関連する視点で受賞できたこと、さらには顧客視点に根差したコスト削減の手法が評価されたこと、本当にうれしく感じています。最後に「4D設計」という考え方を示していただいた松山部会長に、この場を借りて御礼申し上げます。

はびりの 竹内健太

入賞 ASTER (熊本支部)

毎年のトレンドがわかるROYは、年末の楽しみです。今年のグランプリは「参加型リノベでDIYの復権」。納得の受賞でした!そして来年のトレンドを妄想するのも、また楽しみのひとつ。当社もあきらめませんよ!グランプリを獲得までは!

ASTER 中川正太郎

入賞 タムタムデザイン (北九州支部)

受賞には至りませんでしたが、授賞式を通して当社の「現境地」を改めて確認できました。変化し続けるリノベーション業界に向き合いながら、来年に向けて体制や挑戦のあり方をアップデートしていきます。

タムタムデザイン 田村晟一郎

入賞 ひまわり (北九州支部)

“いいね!”の数も、リノベーション内容も伴わなければ、受賞が難しいと年々実感しています。入賞に満足することなく、来年も全国へ福岡発、九州発の魅力的なリノベーションを届けられるよう、日々の空間づくりに尽力していきます。

ひまわり 杉佳亮



2025年10月から11月にかけて、国内で多数のワークショップや講演会を開催。グローバルな視野で活動を続けている。

ています。だからこそ個人や家族の歴史だけでなく、街並みも大切にされています。そして、街並みを整えるためには、そこに住んでいる人たちが共に歩んでいかなければなりません。

だからこそ、リノベーションは空間だけを作るものではありません。人の心であったり、人をつなぐツールだと思っています。とことんお客さまの話を聞いてください。嫌いを聞いて、好きを引き出してあげる。ここがスタートだと思います。

今後は日本でも、リノベーションのプロジェクトをコラボしたり、人材育成などにも取り組みたいと考えています。皆さんと一緒に、デザインの力を深掘りしていけたらうれしいです。



今回の講演は、田村氏(タムタムデザイン/写真左)を通じて吉田さんに依頼した。松山部会長(写真右)と共に、北九州に縁がある3者のスリーショット。

を知ることです。

お客さまの思いがこもった唯一無二のデザインを表現するためには、逆説的ですが自分ができることを伝えてあげる。自分を主役にするのではなく、プロとしての軸を明確にアドバイスし、お客さまをプロジェクトに巻き込んでいく。デザイナーが建築家や工務店と協業し、技術、感性、そしてコミュニケーションが調和した結果こそ、インテリアデザイナーと言えるのではないのでしょうか。

心を動かすデザインに欠かせない3つの視点

お客さまを魅了するために、私は自分の直感を信じた上で、とことん話を聞いて価値観を共有しています。デザインというのは効果的な対比、言い換えると本質の価値を引き出してあげることです。そのために専門家として協創し、技術のプロとしての誇りを持ってデザインしています。

また、差異と共感が驚きを生むことも覚えておいてください。楽しませたり、感動したり。その感動が次の期待となって、空間を楽しませていく。つまり、お客さまを魅了していきます。さらに大切なのが、先入観をなくすことです。自分の心を無の状態にして生まれたデザインこそ、きっとお客さまの心を引きつけます。また、そうすることで私たち自身もプロとして優れたアイデアが出せるようになるでしょう。

心を動かすデザインには、3つの視点が重要です。空間と感情、そして対話です。良いデザインは、お客さまとの対話から生まれます。空間づくりとは、人と人との距離感をデザインすること。そして日々の出来ごとから生じる感情を、きちんと受け止める場とすることが大切です。

嫌いを聞いて、好きを引き出す

アメリカでは、歴史を刻むことがすごく重視され

トップレベルのクライアントを顧客とし、華やかな世界で活躍を続ける吉田さんですが、実はとても泥臭く努力を続けられている方なのではないでしょうか。自分自身ではなくクライアントのために、妥協せず、持てる力を最大限発揮できるよう常に研鑽を続けられています。驕らず謙虚に、仲間と共にゴールを目指す姿は、トップランナーでも初心者でも同じ心持ちであるべきだと感じました。

また、ご自身で言葉にはされませんでした、クライアントを魅了し続けるもう一つのキーワードは「チャームングであること」でしょう。なにより、吉田さん自身がとてもチャームングな方です。誰に対しても態度が変わらず、丁寧であると同時に真剣です。女性であっても男性であっても、周囲に愛される魅力的な人物であることは、成長につながる大きな糧だと思います。

リノベーション協議会がさらに飛躍を続けるためには、建築や不動産だけでなく、さまざまな分野のプロと手を携えていくことが重要です。RENOVATION NOWの基調講演に相応しく、オープンマインドな話を福岡で聞けたことを深く感謝しています。

先達に学ぶ

〈インタビュー〉  
九州沖縄エリア部会  
事務局長  
山崎大亮(株式会社はびりの)



Column

リノベで変わる不動産収益構造

従来の不動産活用は、賃貸共同住宅を中心とした長期保有型が一般的でした。しかし近年は、建築費の高騰や土地価格の上昇により、従来型の賃貸モデルでは想定していた利回りを確保しづらい状況が続いています。多くの不動産オーナーにとって、既存資産をどのように活かし、収益性を高めていくかが大きな課題となっています。

こうした背景の中で有効な手法が、リノベーションによる用途転換です。住宅や事務所として使用されていた建物を、ホテルやサウナなどの高付加価値施設へ転換することで、同じ建物でも収益構造を大きく変えるこ

とが可能となります。特に宿泊・ウェルネス分野は、観光需要や個人利用の拡大により、安定した集客が見込める市場です。

また、AIを活用した予約・管理システムや、24時間対応のオペレーション会社との連携により、オーナー自身が現場対応に追われることなく運営が可能になっています。これにより、人件費や管理コストを抑えつつ、効率的で安定した運用が実現します。

リノベーションは単なる建物改修ではなく、不動産の価値と収益性を再構築する投資手法です。既存資産を最大限に活かし、将来にわたり安定した収益を確保するための選択肢として、今後ますます重要性を増していくでしょう。



九州沖縄エリア部会  
副部会長  
末竹泰典